

2021年度多職種役割分担推進計画(2020年度の計画振り返りを含む)

| 計画番号 | 役割分担業務内容 | 関連部署 | 計画担当者 | 目標達成年次 | 2020年度の計画 | 2020年度の振り返り | 2021年度の計画 |
|------|----------------|---|-------|--------------------|---|---|--|
| 1 | 初診時の予診の実施 | 医局 看護部 視能訓練科 | 加藤部長 | 実施済 (2021年度も継続) | アイセンターでは主に視能訓練士が、アイセンター以外の診療科では看護師が継続して実施する。 | 継続して実施できた。救急外来では診察前や検査前の情報収集として、病歴聴取バイタルサイン測定トリアージなども看護師が行っている。 | アイセンターでは主に視能訓練士が、アイセンター以外の診療科では看護師が継続して実施する。救命救急委員会と連携して、看護師のトリアージの質向上のための教育計画立案を検討する。 |
| 2 | 静脈採血等の実施 | 医局 看護部 中央検査科 | 加藤部長 | 実施済 (2021年度も継続) | 外来患者に対しては、点滴や静脈注射がない場合、臨床検査技師が継続して実施する。入院患者に対しては看護師が継続して実施する。 | 継続して実施できた。 | 外来患者に対しては、点滴や静脈注射がない場合、臨床検査技師が継続して実施する。入院患者に対しては看護師が継続して実施する。 |
| 3 | 入院の説明の実施 | 医局 看護部 事務職員 | 加藤部長 | 実施済 (2021年度も継続) | アイセンターでは外来看護師が、アイセンター以外の診療科では患者支援センターのスタッフが入院の説明を継続して実施する。入院時オリエンテーションは、病棟看護師と看護補助者が内容を分担して継続して実施する。 | 継続して実施できた。患者支援センターは予約制で17時15分までの対応のため、夕方外来で入院の説明が必要な場合は各診療科で対応している。 | アイセンターでは外来看護師が、アイセンター以外の診療科では患者支援センターのスタッフが入院の説明を継続して実施する。入院時オリエンテーションは、病棟看護師と看護補助者が内容を分担して継続して実施する。夕方外来での入院説明の要件数を確認し、同時間帯での対応が実現可能かどうかを検討する。 |
| 4 | 検査手順の説明の実施 | 医局 看護部 中央検査科 放射線科 視能訓練科 事務職員 | 加藤部長 | 実施済 (2021年度も継続) | 検査の説明時にパソコンやタブレットの活用を検討する。各科外来の待ち合いで疾患や検査の説明のビデオなどを流すことを検討する。検査手順の説明を行っているものを検査ごとに見直し、整理して計画を立てる。 | アイセンター外来では眼科医師が疾患説明ビデオを作成し、待合で流す準備を進めた。中央検査科と放射線科に検査手順の説明を行っている検査のリストアップを検討した。 | 作成した眼科疾患説明ビデオをアイセンター外来待合で流す。引き続き医師や看護師が検査手順の説明を行っているものを検査ごとに見直し、整理して計画を立てる。 |
| 5 | 服薬指導 | 医局 薬剤科 | 後藤科長 | 実施済 (2021年度も継続) | 外来患者と入院患者に対して、薬剤師が実施する体制を継続する。服薬指導は2019年度の件数を維持することを目標とする。2020年8月からあやめ病棟が地域包括ケア病棟へ移行するのに伴い、服薬指導業務の見直しを行う。 | 2020年8月からあやめ病棟が地域包括ケア病棟へ移行したことに伴い、服薬指導の件数自体は約2/3程度に減少した。退院時服薬指導や退院に向けた残薬の調整などを病棟薬剤師で行い、指導内容の質の向上に努めた。 | 外来患者と入院患者に対して、薬剤師が実施する体制を継続する。退院後に他の調剤薬局や看護師とスムーズに連携できるよう、退院時服薬指導のフォーマット作成を継続して行う。 |
| 6 | 新型コロナワクチンの一般接種 | 全職種 | 本多副院長 | 2021年度 | (2021年度新規計画) | (2021年度新規計画) | 新型コロナワクチン一般接種の各業務を全職種で役割分担して取り組む。案内誘導、受付、予診票確認、問診、ワクチン接種、接種介助、接種後事務処理など |

2021年度多職種役割分担推進計画(2020年度の計画振り返りを含む)

| 計画番号 | 役割分担業務内容 | 関連部署 | 計画担当者 | 目標達成年次 | 2020年度の計画 | 2020年度の振り返り | 2021年度の計画 |
|------|--------------------------------|---------------------|-------|--------------------|---|---|---|
| 7 | 地域包括ケア病棟入院中の眼科手術患者の診察介助および案内誘導 | 看護部 視能訓練科 | 楯科長 | 実施済 (2021年度も継続) | 病棟検査担当の視能訓練士3名により、該当患者を5名まで受け入れ可能な体制を維持することを目標とする。 | 継続して実施できた。あやめ病棟看護師がわかば病棟の眼科手術患者も診察中の介助を行えるようになり、視能訓練士は該当患者のアイルームへの誘導、眼科的検査、退院後の診察検査予約を実施した。該当患者は1日2～3名であった。 | 病棟検査担当の視能訓練士3名により、該当患者を5名まで受け入れ可能な体制を継続する。 |
| 8 | 感染リスクの高い患者に対する中心静脈栄養の無菌調製 | 医局 看護部 薬剤科 | 後藤科長 | 実施済 (2021年度も継続) | 医師から依頼を受けた患者に対しての実施を継続する。 在宅患者のTPNの無菌調製の一部を院外処方箋で対応できるよう、近隣の調剤薬局と打ち合わせを適宜行う。 | 継続して実施できた。TPNの無菌調製に加え、クリーンベンチでPCAポンプの専用カセットに麻薬をつめる業務にも対応できた。近隣の調剤薬局と打ち合わせも実施できた。 | 医師から依頼を受けた患者に対しての実施を継続する。 在宅患者のTPNの無菌調製の一部を院外処方箋で対応できるよう、近隣の調剤薬局と打ち合わせを適宜行う。 |
| 9 | 外来看護師による外来患者に対する聴力検査等の実施 | 看護部 リハビリ科 | 大川科長 | 2024年 | 外来患者に対する聴力検査を、言語聴覚士不在時に外来看護師で実施できる体制を継続する。 耳鼻咽喉科外来看護師全員が気導聴力検査を行える体制を目指す。 | 外来看護師が気導聴力検査を習得し、看護師側の業務が落ち着いている時には率先して聴力検査を手伝える体制を構築できた。看護師が聴力検査を行えるようになったことで、医師が患者に説明する検査結果にも関心が高まり、耳鼻咽喉科外来スタッフ内での情報共有がしやすくなった。 | 外来患者に対する聴力検査を、言語聴覚士不在時に外来看護師で実施できる体制を継続する。 耳鼻咽喉科外来看護師が行える検査を段階的に増やしていく。 |
| 10 | 院外処方箋FAXの設置場所の変更と増設 | 薬剤科 施設管理 事務職員 | 後藤科長 | 2024年 | 薬局窓口で説明を受けている患者のプライバシーが守られていない課題について、関連する職種で改善策を引き続き検討する。 | 発熱外来ができた当初は、患者同士でソーシャルディスタンスが守られていたため、結果的にプライバシーも守られていた。最近では以前の同じように院外処方箋FAXの付近で密集するようになってきているので、引き続き改善策の検討が必要。 | 薬局窓口で説明を受けている患者のプライバシーが守られていない課題について、関連する職種で改善策を引き続き検討する。 |